

【水の作文大賞】

今、自分ができることから

熊本大学教育学部附属中学校 二年 勝田 諒

水は暮らしに欠かせないものです。私たちの日常生活では、食事・トイレ・お風呂・洗濯・歯磨きなどあらゆる場面で水と関わりをもって暮らしています。そして、水はとても大事で大切なものであることを誰もが知っています。しかし、僕は水の大切さについてあまり意識をしていませんでした。なぜなら、あんなことが起こるとは知らず、いつものように過ごしている日々が続いていくと思っていたからです。

二年前、熊本地震が発生し、私たちの生活は一変しました。蛇口をひねると当たり前のように出ていた水が出なくなり、トイレの水も流せない、お風呂にも入れない、食事も作れない、飲み水もない、歯も磨けない、汚れたものも洗えない、そんな苦しくて、不安な日々が続いていく中、改めて水の大切さに気付くことができました。

母と姉と一緒に給水所に行き、長蛇の列に並び、透き通ってきらきら輝いた水をやっと手にすることができた喜びは、今も忘れることができません。

熊本市は昔から「水の都」と呼ばれているように、水の環境にとっても恵まれている都市です。上水道に使う水の全てを地下水でまかなっているところは全国でも数が少ないそうです。そして、熊本の水はとておいしく、僕たちが県外に出かけた時に、それを強く感じます。また、関東に住んでいるいとこたちが熊本に遊びに来た時、熊本の水のおいしさについても感動して帰っていきまます。

このおいしい熊本の水も、年々水源となっている地下水の量が減ってきていることを知りました。熊本地震そして地下水の減少。本当に私たちの生活をしっかりと見直していかないといけないと強く思いました。

生活を見直すにあたって、僕は日頃から水を大切に過ごしていると感じていた祖父に、話を聞いてみることにしました。

祖父は外国航路を航海する、とても大きなコンテナ船やタンカー船で

仕事をしていました。何万トンという大きな船に、輸出入品はもちろん積み込みますが、その船で働く何十人の人たちが船の中で生活するため水も同じように積み込んで出航するそうです。

一度港を離れると、海の上での生活が始まり、積み込んだ水は「飲み水、食事、洗濯、お風呂、トイレ等」と、みんな大事に大切に使用してさうです。水を補充することができずのは、寄港した時しかないのです。水を大事に使っていても、次の港に着くまで足りなくなりそうなので、水を使うこともあり、時には「もう洗濯をしてはいけない」と、水の節水を強く呼びかけられることもあったそうです。

そのような生活を送ってきた祖父だから、日頃の生活を見ていて「水をとても大切に使っているのだなあ」と、僕が感じたのだと思えました。

熊本地震から二年が経とうとしています。まだ熊本は復旧復興に取り組んでいる最中です。

現在の私たちは、蛇口をひねれば水が出る生活に戻ってはいけません。しかし、僕の水に対する意識は地震前とは違ったものになりました。地震の前に口にしてきた「節水」という言葉がどれだけ表面的であったかと、とても恥ずかしくなりました。

二年前に体験した、苦しくて不安だった水のない生活を忘れることなく、現在、家族で話し合った自分ができるそれぞれの「節水」を、これからもしっかりと取り組み続けていきたいと思っています。